

埼玉県・オハイオ州スカラシップ<語学・大学留学コース>

令和8年度派遣レポート 8月

「新学期」

令和8年度奨学生 塚林宙クリストファー

このたびは、埼玉県とオハイオ州の長年にわたる友好関係の上に成り立つ、この貴重なスカラシップの奨学生として採用いただき、大変光栄に存じます。

本プログラムを支えてくださるすべての関係者の皆様のご期待に応えられるよう、日々精進してまいります。今後とも温かいご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1. 新生活のはじまり

羽田発デトロイト行きの直行便を利用し、約12時間のフライトを経て渡米いたしました。入国後、最初の一週間はミシガン州にある親戚の家へ滞在し、新学期に向けた買い物を手伝ってもらいました。8月10日から始まる留学生向けのオリエンテーションに万全な状態で臨むため、数日前には大学キャンパスへ到着しておくことが望ましいです。キャンパス内にある留学生向けウェルカムハウスは手頃な価格で宿泊可能です。

キャンパスから約1.5kmの場所には大型スーパー「ウォルマート(Walmart)」があり、生鮮食品から衣類・生活必需品まですべて揃えることができます。大学とウォルマートを結ぶ無料シャトルバスの運行も定期的にあります。また、フィンドレーの中心街(ダウントウン)には飲食店やカフェ、小売店が点在しており、地域コミュニティに密着した個人経営のお店が多い印象です。歴史を感じるレンガ造りの美しい街並みが非常に魅力的です。



2. 居住環境（寮・ハウジング）

学生向けの居住施設は、主に「ハウジング」と「ドミトリー（学生寮）」の2種類があります。

- ・ ハウジング：大学が管理・運営する一軒家で、5～10名程度で共同生活を送ります。生活に必要な最低限の家具・家電（冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ等）が完備されています。私は現在ハウジングに滞在しているため、食事は基本的に自炊をしています。清掃が入らないので自身で清掃する必要があります。また、冷蔵庫は共有なので、自分のものには名前を書いておくことをおすすめします。なお、新入生は学食のミールプラン購入が義務ですが、申請を行えば免除が認められる場合があります

- ・ ドミトリー：1つの部屋をルームメイトと共有する相部屋形式です。共有スペースには卓球台やビリヤードなどが設置されており、交流の場となっています。

キャンパス全域は「ドライゾーン（Dry Zone）」に指定されており、一切の喫煙・飲酒が禁じられています。違反した場合は退学処分や奨学金剥奪などの重い処罰が科されます。また、生活上のトラブルが生じた際は、速やかに RA（Resident Assistant）やハウジングオフィスへ相談することが推奨されています。RA とは、寮に新しく入ってくる学生の相談や規則が守られるように管理する学生のことです。学期初週は「ハウジングフリーズ」期間となり、部屋の移動や返金申請が制限されるため注意が必要です。転出申請をしたい場合は、RA に連絡すると、空室状況を確認してもらえますが、手続きは時間がかかることがあるため早めに行動することをおすすめします。

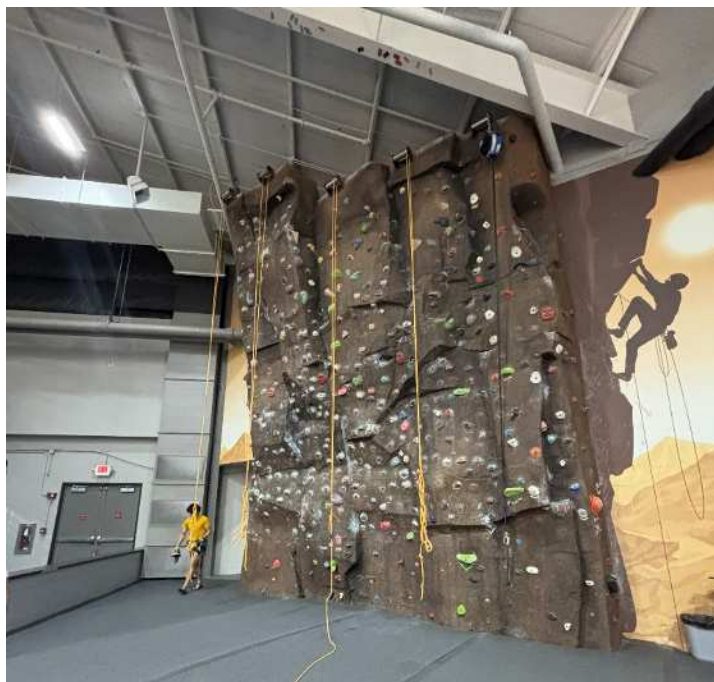
3. キャンパス

フィンドレー大学のキャンパスはレクリエーション施設が大変充実しています。全米で人気が高まっているピックルボールのコートをはじめ、キャンプファイヤー場、ハンモック、ロッククライミングウォール、屋外バスケットボールコートなどがあり、学業の合間に体を動かしてリフレッシュできる環境が整っています。

安全面においては、24時間365日体制でキャンパスセキュリティが巡回しており、治安の良さと安心感を実感しています。学内の移動手段としては徒歩

のほか、電動キックスクーターや自転車が主流です。学生支援を行う Buford Center では、100 ドルのデポジットを預けることで自転車のリースも可能です。

また、食堂には 24 時間利用できる無人売店があり、大学独自の電子通貨「Derrick Dollar」で軽食を購入することができます。



ロッククライミング施設

4. 新入生オリエンテーション

8 月 10 日からの 2 日間、留学生向けオリエンテーションが開催され、日本人留学生 7 名を含む約 30 名が参加しました。学内施設の案内、履修登録の手続き、ハウジングに関する注意事項、ビザや移民法（滞在資格）に関する講習など、多岐にわたる重要な説明を受けました。なお、オリエンテーション期間中は学食が無料提供されるため、自炊生にとっても非常にありがたい支援でした。

8 月 12 日からは全米各地から一般の新入生が続々と到着し、家族総出で引っ越しを行う光景が見られました。多くのアメリカ人学生にとって初めて長期的

に実家を離れる機会となるため、涙を流して別れを惜しむ学生の姿もあり印象的でした。

留学生向けとは別に新入生（Freshman）向けオリエンテーションも開催されます。他大学からの単位認定がない場合は原則 1 年生扱いとなるため、現地学生とのネットワーク作りのためにも、多くの留学生とともに積極的に参加しました。著名人を招いたトークセッション、野外映画上映、ピクニックなど、参加型で非常に活気にあふれるプログラムでした。ミールプランや寮費などに加えて、オリエンテーションにかかる費用などが別途で加算されるため、支払いは見積もりが確定してから支払うことをお勧めします。支払いは、海外銀行送金が主流です。



野外映画鑑賞（無料ポップコーン配布も）

5. 授業について

8 月 17 日より秋学期の授業が本格的にスタートしました。前日までに各講義の教室をオリエンテーションスタッフが親切に案内してくれたため、初日も遅刻することなくスムーズに出席できました。

今学期は計6科目・15単位を履修しています。内訳としては、ノンネイティブ向けの英語クラスが3科目、残りの3科目は国際関係学、異文化理解、そして現地の小学生に日本文化を教える実践的な授業です。

課題提出には学習管理システム「Canvas」が活用されています。

どの講義も少人数制で行われるため、ディスカッションへ主体的に参加し、積極的に意見を述べるのが求められます。疑問が生じた際には、講義の流れを止めてでもその場で質問するよう強く促されるなど、対話を重視する姿勢が徹底されています。日本と比べて教員と学生の距離が近く、対等でフラットな関係性が築かれている点が非常に印象的でした。

6. 課外活動・地域交流

学内では、学生団体主体のクラブ勧誘イベントや現地企業が参加するジョブフェアなど、新しいコミュニティと繋がり、自身の居場所を築くための機会が数多く提供されています。

クラブ勧誘イベントに参加して特に印象的だったのは、団体の約半数が社会奉仕・ボランティア関連であった点です。フィンドレー大学に息づくキリスト教の奉仕精神に加え、アメリカの就職活動において課外活動の実績やリーダーシップが重視される文化的背景が反映されているものと感じました。

数ある活動の中で、私は住宅の建設・改築を支援するボランティア活動に強い関心を持ちました。経済的な事情により修繕が困難な世帯に対し、住環境整備の基礎的な作業をお手伝いする活動です。

学内にとどまらず、このボランティアを通じて地域コミュニティへ深く関わり、世代やバックグラウンドを超えた現地の方々と交流を深めたいと考えております。埼玉親善大使として、埼玉県とオハイオ州の草の根の交流を少しでも促進できるよう、自らができる形で貢献し、実りある留学生活を送る所存です。



埼玉県・オハイオ州スカラシップ派遣プログラムにご興味のある方や、フィンドレー大学について詳しく知りたい方は tsukabayashih2@findlay.edu にお気軽にご連絡ください。留学や現地の生活についての悩みや不安を解消できればと思います。